

審査の結果の要旨

氏名 尹在男

本論文は、「地域環境評価における認知の空間的把握に関する研究」という題目で、認知の空間的な分布把握とその手法の提案と住民の地域に対する印象評価を構造化し、それに従う空間的な指摘との関係を明らかにすることを目的し、住民が持つ地域の空間的な見方を把握する手法を提案し、空間的な分布と印象評価との関係を具体的な場所を通して把握し、計画的な活用について考察を行ったものである。

まず、第1章では、空間的な相互関係を考えながら都市や地域の現状を把握することは非常に重要で、環境心理学分野は計画の妥当性や理解度を高める役割を果たさなければならないという研究の背景などについて述べている。

次に、第2章では、予備調査であるキャプション調査の結果をもとに、地域の印象を評価する評価語を抽出し住民アンケート設計の材料とし、キャプション調査の地図上の指摘を分布として捉え、地域評価の空間的分布の把握のため地図記入式設問を設定し、東京都内の5地域を対象とした居住者へのアンケートによる調査の概要について述べている。

第3章では、調査の地図記入式設問に基づいた印象評価の空間的な分布パターンについて考察している。空間的自己相関を用いて印象評価の群集性を分析し、その結果、良い評価については地域全般に高い群集性を導き、悪い評価については比較的低い空間的自己相関を見せることを導いている。また、Moranscatter Plotを用いて分布の形状の把握やバリオグラムによる分布のスケールを把握、さらに、分布と眺望(被視頻度)や建物の密度との回帰分析の残差を用いて分布の中心エリアを分析し、地域イメージの中心エリアとして解釈している。

第4章では、意識構造の把握と場所の検討を行っている。環境評価の地域差を検討した上で、アンケートの環境評価と意見・行動に関する項目に対して因子分析を行い、意識傾向を把握している。また、住民の意識構造を把握するためグラフィカルモデルを用い、合成された変数を用いて、意識構造を4つのレベル(フェイス項目、不満、印象評価、意見・行動)に分け、意識構造をモデル化している。さらに、地図記入アンケートの

指摘と印象評価語との関係に対応分析を行い、空間的な分布を具体化している。

第5章では、正準相関分析を用い、意識構造と指摘の空間的要因との関係づけを行っている。また、正準相関分析の解釈のため、多次元データのグラフィカル表示法であるバイプロットを用いて視覚的な把握を試みている。各地域の第1・2正準変量を軸としてバイプロットを作成し、個体と変量のそれぞれの関連性を同時に視覚的に表示させている。

第6章では、空間的な分布、意識構造、印象評価と空間的要因との関係の結果から、地域の特徴を把握している。すなわち、地図記入式設問をもとに得られた印象評価の空間分布の空間的自己相関の比較を行っている。また、印象分布のスケールをバリオグラムを用いて検討することで印象の広がりと比較し印象の同質地域やその大きさとして解釈することで、計画の手掛かりとなるとしている。さらに、印象構造と指摘の空間的要因との関係を正準相関分析の結果をもとに重ね合わせ、印象構造と空間的要因との関係性を明らかにしている。また、印象評価と空間的要因の関係に基づき地域を4つの類型で分類し地図化を行い、まちづくり計画のためのベースマップとしての活用ができるよう提示している。

最後に、第7章では結論として総括及び今後の課題について述べている。

本論文は、空間的観点から住民の地域に関する評価を扱うことで、住民の評価や考えが計画の段階に充分反映されるための分析・提示方法を提案したものであり、地域に関する印象評価項目を空間分布として表現し、評価ごとの比較を行ったことは、住民の印象評価を視覚的に把握し、計画の基礎資料として役立つデータを得るという意味で意義があると言える。また、印象の同質圏域として印象分布のスケールを把握しようとした試みは、計画の配置や規模設定に深く関わる内容だと考えられ、また、印象評価と空間的要因との関連性を把握することで、印象評価の空間的な予測が可能になり、「定住性」「活動性」など印象評価による地域の空間的なパターン化を可能にしている。さらに、これにより印象と空間的要因の関係を地図上で把握することが可能になり、本論文の地図化手法がまちづくり計画のベースマップのひとつとしての活用を期待できると考えられる。以上のように、本論文は、建築学、特に建築環境心理学分野にとって画期的な研究であり、工学に対する寄与は大きいと考えられる。

よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。